平成27年漁期　すけとうだら漁獲可能量（TAC）期中改定案について

資料2－3

（単位：万トン）

魚種	系群	資源状態		ABClimit（日本EEZ）					TAC				備　考
		水準	動向	25年	26年	27年当初	**27年再評価**	漁獲シナリオ（管理基準）	25年	26年	27年当初	**27年改定案**	
すけとうだら	【中期的管理方針】 日本海北部系群及び太平洋系群については、近年の海洋環境等が資源の増大に好適な状態にあるとは認められない。このため、資源水準の低下が顕著となっている日本海北部系群については、資源の減少に歯止めをかけることを目指して管理を行うものとし、資源管理計画に基づく取組の推進を図るものとする。太平洋系群については、一定の親魚量を確保することにより資源水準の維持を基本として、漁獲動向に注意しつつ、管理を行うものとする。 その他の系群については、ロシア連邦の水域と我が国の水域にまたがって分布し、同国漁船によっても採捕が行われていて我が国のみの管理では限界があることから、同国との協調した管理に向けて取り組みつつ、当面は資源を減少させないようにすることを基本に、我が国水域への来遊量の年変動にも配慮しながら、管理を行うものとする。												【27年TAC設定の考え方】 【日本海北部系群】 中期的管理方針に則して「③親魚量の増大（0．74万トン）」と同数のTAC（案）7，400トンとする。 【オホーツク海南部】 中期的管理方針を踏まえ、ロシア水域とのまたがり資源であることから、来遊状況が良好な場合に対応できる数量として、近年の最大漁獲量である24年漁期の52，023トンをベースに、TAC（案）53，000トンとする。 【根室海峡】 中期的管理方針を踏まえ、ロシア水域とのまたがり資源であることから、来遊状況が良好な場合に対応できる数量として、近年の最大漁獲量である23年漁期の19，115トンをベースに、TAC（案）20，000トンとする。 【太平洋系群】 中期的管理方針に則して「②親魚量の維持（17．7万トン）」と同数のTAC（案）177，000トンとする。
	日本海北部	低位	減少	0.76 （0.65）	0.65 （0.90）	0.74	**0.67**	親魚量の増大 （③）	1.3	1.3	0.74	**0.74**	【27年TAC期中改定の考え方】 【根室海峡】 来遊量増加により漁期開始から9月末までの漁獲量が、近年の最高値で推移していることから、漁期末までに見込まれる27，000トンにTAC数量を改定する。 【太平洋系群】 当初TAC設定のベースとしたABCの再評価結果が183，000トンとなったことから、これに合わせた数量183，000トンにTAC数量を改定する。 ※TACの管理期間は、「4月～翌年3月」
	オホーツク海南部	中位	増加	－	－	－	－	－	5.2	5.3	5.3	**5.3**	
	根室海峡	低位	横ばい	－	－	－	－	－	2.0	2.0	2.0	**2.7**	
	太平洋	中位	減少	16.6 （18.0）	15.7 （21.0）	17.7	**18.3**	親魚量の維持 （②）	17.1 （18.0）	17.1 （21.0）	17.7	**18.3**	
合　計									25.6 （26.5）	25.7 （29.6）	25.74	**27.04**	

注1）オホーツク海南部及び根室海峡は、詳細な生態や資源状況が不明なことから、ABCの算定を行っていない。

注2）太平洋は、25年に先行利用（1万トン）の配分を実施したが、利用実績はなし。

注3）ABClimit欄下段（　）書きは、再評価の数量。 TAC欄下段（　）書きは、先行利用分を除いた期中改定後の数量。